

学校の応援団

奈良教弘NEWS

奈良教弘 大一路南
奈良市二条一
株式会社 奈良教弘

特別支援学校向け出前授業

パラフットボール教室

in 奈良県立二階堂養護学校

(川合浩司校長)

主催 一般社団法人 パラフットボール

【協賛】 ジブラルタ生命保険株式会社

【後援】 公益財団法人 日本教育公務員弘済会

十一月十二日(火)、奈良県立二階堂養護学校で、パラフットボール教室が行われた。高等部1、3年の生徒45人が参加し、パラフットボールの体験を通じてスポーツの楽しさを知り、意欲的に体を動かすことの楽しさを体感した。

この教室は、全国の特別支援学校対象に、毎年抽選で十校のみで開催されており、奈良県では今年初めての実施となった。講師は一般社団法人パラフットボールの中山剛さんと瀬戸脇正勝さん、清水エスバルスの今泉幸広さん、デフサッカー日本代表の古島啓太選手が務め、ジブラルタ生命からは森田哲也マネージャー、水守琢也ディレクター、西村修一天理営業所長、鍛冶田正代ライフプランコンサルタント、奈良教弘からは、前川裕道専任幹事、山口智美参事が参加した。

講師紹介やあいさつでは、選手の実技を見たり古島選手から「ありがとう」などの手話を教わったりした。緊張がほぐれてきたところで、音楽を流してラインに沿ってジャンプするリズムスポーツダンス、ボールを使った体操や2人組でのボール運動、ドリブルやシュート練習などを行った。簡単な動きから複雑な動きへと生徒が自然にどんどん動けるよううまく指導いただき、ゴールするたびに全員がハイタッチを行いみんなとてもよい表情で楽しんでた。最後にはグループ対抗のミニゲームが行われ、講師や先生のチームにも挑戦し、大いに盛り上がった。

終了後には、ジブラルタ生命から学校にボール6個が贈られた。

生徒たちからは、「みんなとできて楽しかった。」「面白かった。」「シートが楽しかった。」「ゴールできてうれしかった。」「いい思い出になった。」「などの感想が次々と発表され、最後に全員で「ありがとう」と手話でお礼の気持ちを伝えた。生徒が退場する際も、みんなハイタッチをして笑顔で解散した。

先生方からは「難しい運動も雰囲気や気持ち盛り上げてできていた。授業にも生かしたい、参考になった。」「スポーツっていいな、友達を意識する、苦手、失敗したらどうしようなどなかった。それでもやりたかった。」「川合浩司校長からは「初めてのことに引込まないで、思いやりを伝える生徒たちが生き生きとスポーツを楽しんでいた。自信につながったと思う。見ていて幸せな気持ちになった」と言っていた。



(山口 智美)

学校応援キャンペーン贈呈式

十二月十一日(水)桜井市立大三輪中学校を最後に今年度の学校応援キャンペーン学校賞19校の贈呈式を終了した。来年度も応募率100%の三連覇、今年以上の学校賞を獲得し、多くの教職員の皆さんが笑顔になるよう届けたいと考える。

(村田 貴)



王寺南義務教育学校



高田商業高等学校



大福小学校



大三輪中学校

*公益財団法人日本教育公務員弘済会の教育振興事業(奨学金事業・教育助成金事業・教育文化事業)及び福祉事業は、教弘保険の契約者配当金により運営されており、日本教育界に貢献しています。

東京海上日動教育振興基金 2024年度 教育研究助成校決定!!

奈良県立奈良商工高等学校(長谷川智校長)
檀原市立耳成小学校 (中島浩一校長)

公益財団法人東京海上日動教育振興基金は、創業70周年を記念して1984年8月に設立された。

次代を担う青少年が心身ともに健やかに育ち、生きる力を身に付けることを願い、初等中等教育に携わる教職員の熱意・研鑽に溢れる教育研究成果に対する助成を通じて教育の発展と充実に寄与するものである。

毎年、学校教育において意欲的に取り組み創意工夫に溢れた指導によって顕著な成果を収めている実践研究に対し助成が行われている。



今年度は、奈良県立奈良商工高等学校「地域学校協働活動を通じた教育活動について」地域とともにある学校を目指して、檀原市立耳成小学校「すべての子どもたちが尊重される授業の創造」聴き合い、つながり、学び合うことを通して」が選ばれた。

十二月十九日(木)、東京海上日動株式会社 高木信一奈良支社長と奈良教弘村田参事がそれぞれの学校を訪問し、賞状と助成金十五万円を贈呈した。

(村田 貴)



中学生作文コンクール 都道府県賞

前回紹介した(公)生命保険文化センターが実施する中学生作文コンクールで田原本町立田原本中学校3年の福本優愛さんの作品が都道府県別賞一等に選ばれた。

「一型糖尿病と生命保険」

私には、一型糖尿病という持病があります。この病気は、今のところ治すことができない病気で、インスリンという薬を使用し血糖を安定させることで合併症を防ぎ、糖尿病ではない人と同じ生活を送ることができません。

しかし、一型糖尿病は生命保険に加入することが普通の人より難しいです。理由は、一型糖尿病は自己免疫疾患であり、すい臓のインスリン生産能力が失われることから、生涯にわたりインスリン療法を必要とします。このため、一型糖尿病患者は他の健康な人々と比べて高い健康リスクを伴うとみなされることが多いからです。また、一型糖尿病患者が生命保険に加入する際のもう一つの大きな問題は、保険料の高さです。保険会社はリスクを管理するために、通常よりも高い保険料を設定する傾向があるからです。これにより、多くの患者が経済的な理由で加入を諦めざるを得ない状況があります。

ですが、近年では一型糖尿病患者の生命保険加入のハードルを低くするための取り組みもみられます。一部の保険会社では、糖尿病患者向けの特別な生命保険商品の提供が行われています。これらの保険商品は、糖尿病患者の管理状態や健康状態に基づいて柔軟に設定されています。また、健康管理プログラムや、定期的な健康チェックを組み合わせることで、リスクを低減し、保険料を引き下げる試みも行われています。

さらに、患者自身も自分の健康状態をしっかりと管理し、定期的な医療チェックを受けることで、保険会社に対して自分のリスクが低いことを証明する努力をしています。このような努力が実を結び、将来的には一型糖尿病患者が生命保険に加入しやすくなる

なることが期待されます。

このようなことから私は、一型糖尿病という病気は、しっかりと治療していたら健康な人と変わらないし、リスクも低いということが世界中に広まって、健康な人と同じぐらい生命保険に加入しやすい環境になっていたらいいなと思いました。

奈良百景



宇陀市大宇陀の久保本家酒造

「久保本家酒造」は道の駅「大宇陀」から榛原街道を東へ入ったすぐにあります。女将さんの話によると、昔は「酒蔵通り」というくらい酒蔵があったそうですが、今は数軒先の「芳村酒造」だけになったそうです。併設のカフェでは仕込み水が出てきます。他の蔵ではなかなか仕込み水は飲ませてくれませんが、ここはおわり自由です。すごくおいしい水でした。

(大山 浩史)